

# 三島ふじ(みしまふじ)

育成者：佐々木良成  
来歴：「ふじ」の枝変わり  
育成地：秋田県平鹿郡平鹿町醍醐字太茂  
田6

## 特性

### ■栽培特性

樹姿、樹勢、結実の早晚、えき花芽の着生および生理障害の発生等については、普通「ふじ」と同様であり、特異な点はみあたらない。

着色能力は極めて高く、日当たりの悪い内枝や下枝でも良く着色する。反射材を使用しなくともがく筒内部まで明瞭な縞が入る。よって、着色管理は、果実に直接付着している葉を摘むだけで良く、作業の省力化が可能である。

育成地での成熟期は、11月上旬と普通「ふじ」と同じであるが、樹勢が落ち着き、日当たりの良いところではやや早まる。

### ■果実特性

果実の大きさは320g前後である。選抜当初は、やや小玉傾向であることが指摘されたが、現在は特に問題視されることはない。

果実の形状は普通「ふじ」に比較し、やや縦長である。果色は明るい鮮紅色で濃く着色し、成熟が進んでも縞は明瞭に残る2系タイプである。

糖度、酸度、蜜入り等の果実形質は、普通「ふじ」と同等かやや優れ、食味も良い。貯蔵性は、普通「ふじ」と同時期の収穫では熟度が進んでいる分、普通「ふじ」よりもやや劣る。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

普通「ふじ」と同様に主要病害の斑点落葉病や黒星病に対しては中程度の罹病性を示す。他の病害虫についても普通「ふじ」と同程度である。

着色は早くから進むため、外観のみで収穫期を判断するのは危険である。食味を確かめてから収穫し、早取りに注意する。また、日当たりの悪い内枝でもよく着色するため、枝を厚くしやすく、場合によっては、着色が良い割に食味が伴わない果実が出荷されるおそれがあるので注意する。

着色能力に依存した栽培を行うと、外観と内容の不一致を引き起こす危険性があるため、他の着色系品種と同様に日当たりを考慮した樹形(枝の配置)と適樹勢の維持を心がける。

着色の安定性は高いが、色調や縞の密度などに変異が出やすい。問題がある変異については、更新し直す必要がある。

### ■地域適応性

現在、種苗業者が「みしまふじ」の名で販売しているものには、「紅みしまふじ」、「ニュー三島ふじ」、「三島系ふじ」および「三島ふじ選抜1号、2号」などがあるが、みしまの名の付かない「らくらくふじ」、「2001ふじ」、「ふじロイヤル」なども、「みしまふじ」に由来するものである。

これまで多数の着色系枝変わりが検討され、それぞれの地域に適した系統が定着してきたなかで、これまでになく高着色系の出現は、管理作業の省力化といった新たな観点から注目されており、全国的に普及が図られていくものと予想される。

(上田仁悦)